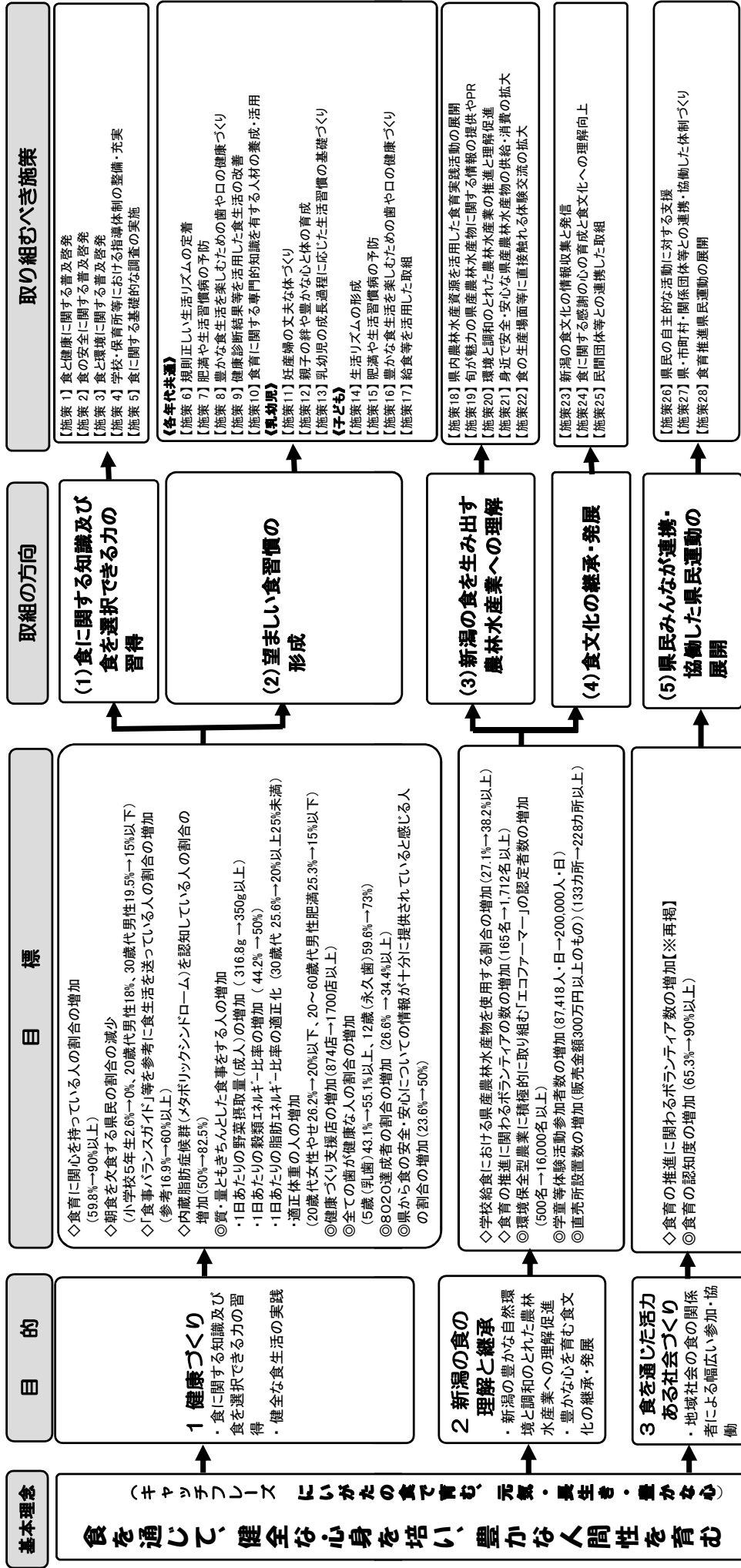


第3章 新潟県が目指す食育の方向

- 1 基本理念
- 2 目的と目標
- 3 基本的視点

【対象】 子どもとその家族を中心とした食育の推進
【資源】 米をはじめとする新潟の豊かな農林水産資源を活かした食育の推進
【取組】 家庭、学校、地域でみんなが協力して取り組む食育の推進

食育推進の基本的視点



凡例 ◇:国と共通の指標 ◎:県の独自の指標

1 基本理念

食は命の源であり、健全な食生活なくして私達の健康は維持できないこと、自然の恵みや「食」に関わる人々の様々な活動への感謝の念や理解を深めることなど、県民一人一人が「食」について見つめ直すことが、今、とても重要になっています。そこで、これらを踏まえて、

食を通じて、健全な心身を培い、豊かな人間性を育む

キャッチフレーズ にいがたの食で育む、元気・長生き・豊かな心

ことを目指すことを基本理念とします。

2 目的と目標

(1) 目的

県では、基本理念を踏まえて、3つの目的を設定しました。

○ 健康づくり

食に関する知識及び食を選択できる力の習得や健全な食生活の実践を通じて、県民一人一人が生涯にわたって主体的に健康づくりに取り組むことを目指します。

○ 新潟の食の理解と継承

新潟の豊かな自然環境と調和のとれた農林水産業への理解促進と豊かな心を育む食文化の継承・発展に向け、米をはじめとする新潟の豊かな農林水産資源を活かした新潟の食の理解と継承を目指します。

○ 食を通じた活力ある社会づくり

家庭や学校、農林水産物の生産の場など、地域社会における様々な分野で、食の関係者が幅広く参加し協働して、食を通じた活力ある社会の形成を目指します。

(2) 目標

目的を達成するために、具体的な目標（指標）を設定しました。

○健康づくり

凡例 ◇：国と共通の指標 ◎：県の独自の指標

目標名		現状値（H16）		目標（H24）	参考（国）（H18～22）	
◇食育に関心をもっている人の割合の増加		59.8% (H18)		90%以上	70%→90%以上	
◇朝食を欠食する人の県民の割合の減少		小学校5年生	2.6%	0%	4%→0%	
		20歳代男性	18.0%	15%以下	30%→15%以下	
		30歳代男性	19.5%		23%→15%以下	
◇「食事バランスガイド」等を参考に食生活を送っている人の割合の増加		16.8% (H18)		60%以上	60%以上	
◇内臓脂肪症候群（メタリック Syndrome）を認知している人の割合の増加		50.0% (H18)		82.5%	80%以上	
◎質・量ともきちんとした食事をすすめる人の増加	1日あたりの野菜摂取量（成人）の増加		316.8g		350g以上	—
	1日あたりの穀類エネルギー比の増加		44.2%		50%	—
	1日あたりの脂肪エネルギー比の適正化		30歳代	25.6%	20%以上 25%未満	—
	適正体重の人の増加		20歳代女性 やせ	26.2%	20%以下	—
20～60歳代 男性肥満			25.3%	15%以下	—	
◎健康づくり支援店の増加		874店 (H18)		1700店以上	—	
◎全ての歯が健康な人の割合の増加		5歳（乳歯）		43.1% (H17)	55.1%以上	—
		12歳（永久歯）		59.6% (H17)	73%	—
◎8020達成者の割合の増加		26.6%		34.4%以上	—	
◎県から食の安全・安心についての情報が十分に提供されていると感じる人の割合の増加		23.6% (H18)		50%	—	

○新潟の食の理解と継承

凡例 ◇：国と共通の指標 ◎：県の独自の指標

目標名	現状値 (H16)	目標 (H24)	参考 (国) (H18~22)
◇学校給食における県産農林水産物を使用する割合 (食材数) の増加	27.1% ^{※1}	38.2%以上	21%→30%以上
◇食育の推進に関わるボランティアの数の増加	食育ボランティア 165名 (H18)	1,712名以上	20%以上増加
◎環境保全型農業に積極的に取り組む「エコファーマー」の認定者数の増加	500名	16,000名	—
◎学童等体験活動参加者数の増加	87,418 人・日 ^{※2}	200,000 人・日	—
◎直売所設置数の増加 (販売金額 300 万円以上のもの)	133カ所	228カ所以上	—

※1 6月と11月の各1週間を調査期間としています。なお、目標 (H22) は、通年の目標値です。

※2 参加者数 (人・日) は、実参加人数と体験活動のために当該市町村に滞在した日数の積の総和です。

○食を通じた活力ある社会づくり

凡例 ◇：国と共通の指標 ◎：県の独自の指標

目標名	現状値 (H16)	目標 (H24)	参考 (国) (H18~22)
◇食育の推進に関わるボランティアの数の増加	食育ボランティア 165名 (H18)	1,712名以上	20%以上増加
◇食育の認知度の増加	65.3% (H18)	90%以上	—

3 基本的視点

本計画では、「対象」「資源」「取組」の3つの基本的視点を定め、重点的かつ効果的に食育を推進します。

【対象】

○子どもとその家族を中心とした食育の推進

食育は、子どもから大人まで全ての県民が関わっています。

特に、子どもに対する食育は、子ども自身の健康で豊かな人間性を育んでいく基礎となることはもちろん、本県が活力と魅力にあふれた地域として発展し続けていく上でも大切なことや、生活の基本となる場が家庭であることから、「子ども」と子どもに最も身近なその「家族」に視点を置きました。

【資源】

○米をはじめとする新潟の豊かな農林水産資源を活かした食育の推進

本県は広い県土を有し、全国有数の食料供給基地を形成しています。

全国一の産出額を誇る米をはじめ、豊かな農林水産資源に恵まれており、これら身近な県産食材への理解を深めることが、自然の恵みや食に関わる人々への感謝の心の育成、自身の健康、食文化の理解や継承へとつながっていくことから、「新潟の豊かな農林水産資源」に視点を置きました。

【取組】

○家庭、学校、地域でみんなが協力して取り組む食育の推進

食育を進める中心は「家庭」ですが、今日ではその家庭の機能が弱くなっています。

そのため、家庭を取り巻く「学校」や「地域」が果たすべき役割が大きくなっていることから、「家庭、学校、地域でみんなが協力して取り組む」ことに視点を置きました。